

【カレッジ・はなみづき】新聞

第55号 H.26.9.12

発行 【カレッジ・はなみづき】

館外・古典

『落語寄席鑑賞』

新宿 木廣亭

七月一日(金)日本の古典



寄席

は出

てこぬわが

頭には信じら

れない滑らか

さ。うんと笑

つて日頃の・を発散しよう

と軽いノリのつもりが、話芸

の奥深さに、漸家さんのプロ

としての精進に感銘を受け、

落語ファンになつた。

面白く可笑し

かつた。4時

半帰路に着き、

6時過ぎ相で

無事解散。美

味しい昼食を

頂き、大いに笑い、楽しい一

日だった。

近で聴くとはつきりした音色

である。演題は当日のお客や

前後の話によって決まり、

夫々の話が重複しない様に工

夫されていて、落語、漫才、

物まねなど芸達者が多い。江

戸屋猫八の指笛、口笛、鶯と

鈴虫の澄んだ鳴き声は素晴らしい

瞬間だ。落語では、柳家

さん八の読経しながら小言を

挟む技、川柳、柳の戦前から戦後までを歌で綴る漸

締めは柳家小ゑん、娘の結婚

を心配する親と娘の理想……

面白い

おもしろい

</